ま　え　が　き

新谷賢太郎

昨年（1969）は，高校教育の現場を守るものにとって，極めて憂うべき事件が各地に続発し，事件発生の有無にかかわらず，高校教育にたずさわるわれわれすべてが，ともどもに協力して取り組まねばならぬ性質のことであり，本校も本校なりにいたく心をいためました。豊かな情操をもち，心身ともに健全な若者であることを願い，高校教育のより充実のため日頃努力しているものに映じた，その行動の非情性には特に考えさせられるものがありました。こうした年も明けて，本年は生徒の動向も落ち付きをとりもどし，常態に復しつつあるように思います。この間，本校においては，教育・研究・教育実習指導の各面で，従前通り平常の状態を堅持して年度末に至り，ここに当年度中の教官研究をまとめ「高校教育研究」第22号を刊行して，皆様のお手もとまでお届けする運びになり，いささかの安堵感を催す昨今でございます。

高校教育を推し進めるに当り，「ホーム・ルーム」の運営は，まことに，解決至難なさまざまな諸問題と取り組まねばならない問題状況に置かれています。また，この時間は，ある意味で，その学校の教育の実相，特に教育姿勢を端的に物語る焦点のような時間でもあると思います。「ホーム・ルーム指導案」の一編は，本校研究部のよびかけに応じて各教官の協力の結果生れた試案を発表したものでございます。「物理実験書」「改正指導要領における化学のI問題点と取り扱い」「行列の指導について」の各編は，それぞれ理・数科担当教官が日々の学習指導の実践の場で意識した問題の理論的反省を通してまとめた各教官の自覚的所産でございます。

ささやかな歩みですが，皆様のお目に止まる好機を得て，御教示・御叱正をいただければと庶幾するものでございます。